

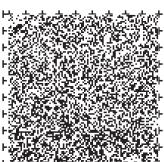
はじめての

パラスポーツ観戦

かんせん



© 真島ヒロ



応援のコツがわかると、観戦はもっと楽しくなる!

おうえん

たの

かんせん

たった10秒で攻守が切り替わるスピーディな試合展開。 足音、ノイズ、バウンドボール… 音のかけ引きに勝つのはどっちだ!?

競技概要

01

攻撃側は鈴が入ったボールを相手ゴールに投げ、守備側は音を頼りにゴールを守ります。静まり返ったコートの上で選手が視覚以外の感覚を最大限に研ぎ澄まし、激しい攻防を繰り広げるパラリンピック独自の競技です。



ルール説明

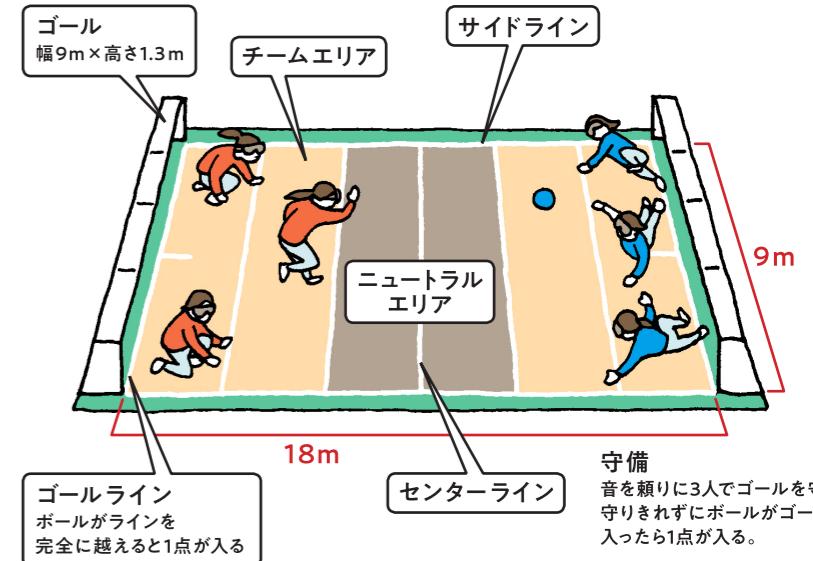
1チーム3人でボールを投げ合い、得点を競う対戦型競技です。攻撃側は相手ゴールを狙って、ボールを転がすように投球します。守備側はボールの音や相手の足音を聞き分け、体全体を使ってゴールを守ります。前・後半各12分で、得点の多いチームが勝ちとなります。

攻撃

ボールを投げ合うことで攻守が入れかわる。



チームエリア内に投球する
ラインの下の糸
ラインに触ることで、選手は自分の位置を確認できる。



守備
音を頼りに3人でゴールを守る。守りきれずにボールがゴールに入ったら1点が入る。

見どころ&応援方法

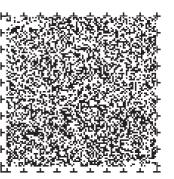
03

審判の「クワイエット・プリーズ」をきっかけに、音を出すことが厳しく制限され、会場はしんと静まり返ります。投球する選手は転がすように投げるばかりではなく、バウンドボールでボールが転がる音を守備側に聞こえにくくしたり、変化球で守備のコース取りを難しくします。さらに、ボールを持っていない攻撃側の選手が足音を立てたり、床を手で叩くなどして騒音を出すことで、投球する選手の動きを相手に悟られづらくする搅乱作戦を行ったりもします。一方、守備側はこうした攻撃側の作戦に惑わされないよう視力以外の感覚を総動員して気配を探り、チームメイトとコミュニケーションを取りながら体全体を使ってボールを止めます。このように競技の特性を活かした音の駆け引きが、ボールを取ってから10秒以内に投球しなければならない「10セカンズ」というルールのもと目まぐるしく行われるのが見どころです。

ゴールボール観戦が
なるコラム
もっとおもしろく

COLUMN

シーンと静まり返った会場で盛んに行われているのが“駆け引き”。一球一球、すべての投球において、選手たちはお互いの駆け引きを“音”によって行っています。たとえば、試合中、ときおり目にのぞむ攻撃側の選手たちがゴール前に集まるシーン。実はこれ、単にコミュニケーションをするためだけではありません。“音”を出さないように手渡しでパスをし、相手が左右どちらから投球が行われるかを悟られないための戦術なのです。逆に“移動攻撃”的場合には、わざとバウンドをさせたりして音を出し、パスしたことを相手に伝えることもあります。ボールを持っている選手が忍び足で素早く、右から左、あるいは左から右へと移動し、守備側の情報をかく乱させます。こうした“駆け引き”こそが、得点のチャンスを生み出します。



04

クラス分け

パラリンピックでは、視覚障がいのある選手が対象です。障がいの程度でのクラス分けではなく、アイシェードで目隠しをして条件を同じにします。

クラス	対象となる選手
B1	視力は明暗が分かる光覚まで、どの距離や方向でも認知はできない選手。
B2	手の形を認知できるものから、視力0.03未満。または視野が5度未満の選手。
B3	視力は、0.03以上0.1まで。視野が5度以上で20度以下の選手。

※ 視野より視力が優先される

一般社団法人 日本ゴルボール協会
<http://www.jgba.jp>



TEAM BEYONDについて

パラスポーツ(障がい者スポーツ全体を指して使用しています)を応援する人を増やすため、東京都が2016年から展開しているプロジェクトです。スポーツをする人も、観る人も、支える人も、あらゆるメンバーがひとつのチームとなってパラスポーツを盛り上げていきます。



みんなで観に行こう、
パラスポーツ。

サイトへのアクセスはこちらから

www.para-sports.tokyo/



SNSも
こうしんちゅう
更新中!



@parasports.tokyo



@tokyoparasports



@tokyoparasports



TOKYO
METROPOLITAN
GOVERNMENT